太刀宮文書・佐治家資料調査について

山田　洋一

はじめに　調査の経緯

本書は、「本書の構成と視点」で述べたように、科研費「公儀触伝達にみる徳川領国と国持外様領国の両領国体制の存在と構造―幕藩体制構造研究」によるものであるが、太刀宮文書等の調査の遠因は京都府立大学（以下、本学）が実施している府大アクター（二〇〇四年度地域貢献型特別研究「丹後地域史の地域的特性に関する基礎的研究」）に主に資料調査にかかわって参加したことである（その頃、筆者は本学の北隣の京都府立総合資料館に勤務中であった）。

その後、本学の先生方が主となって編さんされた京丹後市史にも参加させていただき、『峯山藩関係史料集』（二〇一〇年）、『久美浜代官所関係史料集（二〇一四年）の編さんに携わらせていただいた。後者編さんにかかわる調査で、初めて太刀宮文書（当時は神谷神社保管文書）に接することができた。その後、所有者の承諾を得て、同文書中の、複製物があった御用留等を拙稿に使用させていただいた。その過程で、同文書の重要性を再認識し、全点の調査、画像による利用が可能となることを希望するようになった。

本学諸先生に、府大アクター、科研費の研究にかかわって調査等のご協力をお願いしていたが、お勧めもあり、科研費に応募したところ、採択となり、今回、基礎史料とするために調査、撮影が可能となった。

一　調査の概要

太刀宮文書は、京丹後市久美浜町の神谷神社（太刀宮）が所蔵する文書群で、久美浜代官所と領地の村々の仲介をした郡中代（陣屋元村の久美浜村の庄屋が兼帯）等が作成・収受した文書等である。本書口絵2、第一部新谷勝行氏論考にあるように郡中代を務めていた今西家から、大正七年（一九一八）に同神社に寄附された。

その後、主要な調査が、日本常民文化研究所、京都府教育委員会・同立丹後郷土資料館によって実施され、目録が刊行されている。

今回の調査はそれらの調査において作成された目録を参考、基礎として実施し、目録との照合、デジタル撮影を行うことを目指した。

実施過程は次のとおりである。

二〇二〇年六月五日に現地調査、同年八月五日に、①太刀宮文書五箱、②その他の資料三箱、合計八箱を神谷神社から借用し、本学文化情報学実習室へ移動し、調査、デジタル撮影を行った。終了後、中性紙保存箱（中型一九箱）に入れ替えて、二〇二一年六月七日に返却を行った。その直後に、新たに関係の文書が確認され、③追加分として

借用し、調査等を行い、同二一日に返却を行った。

①～③の調査結果は次のとおりである。

まず、①～③から、A太刀宮文書とそれ以外のB佐治家資料、Cその他、があることが確認できた。次に確認したA～Cにつき次の作業を行った。

A　すでに目録として、ア「神谷神社所蔵文書」（七九二点、『漁業制度資料目録6集　全国篇Ⅳ』〈日本常民文化研究所、一九五二年〉）、イ「神谷神社保管文書目録」（九五八点、『丹後漁業関係古文書目録』〈京都府教育委員会・同立丹後郷土資料館、一九九四年〉）が作成されていた。そのため、イに基づき、一点毎に、①～③を確認した。若干原本が確認できないものもあった。また目録にはないが該当すると判断したものを補足して最終的に目録上は合計九九一点とした。確認できたものから、デジタル撮影を行った。

B　②において、神谷神社宮司佐治家当主が関わった歴史編さん事業関係の資料を確認し、熊野郡誌、久美浜県史関係にまとめ、合計八八点の目録を作成し、デジタル撮影を行った。

C　②において、商家の文書、神社関係の文書を確認し、目録作成を行った。

詳しくは、後述の各解題、拙稿「京丹後市久美浜町太刀宮文書等調査」（『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報7』〈二〇二一年〉）・「同（2）」（同〈二〇二二年〉）を参照していただきたい。

二　第一部の構成

第一部は、太刀宮文書、佐治家資料の活用に資するため、最初に神谷太刀宮（神谷神社）宮司佐治宣幸氏「神谷神社について」を掲載させていただいた。神谷神社の歴史を、神谷神社と太刀宮の関係にふれていただきながら紹介していただいた。続いて、本稿、論考編、資料編としている。論考編の一部は再掲載させていただいたものであるが、その他は関係の研究者に寄稿をお願いした。

論考編は、①水本邦彦氏「〈浦触〉と丹後の浦々」・「補説　丹後国竹野郡中浜村『御用留』の浦触関係記事」、②飯塚一幸氏「文明開化と稲葉市郎右衛門」、③三浦泰之氏「明治初年の久美浜県における郡中代と郡中改革」、④新谷勝行氏「『京都府熊野郡誌』編さんと神谷神社参考館」、⑤岡田つかさ氏「久美浜代官所領中間支配機構の役職について　―丹後国五郡惣代・丹後但馬両国惣代を中心に―」からなっている。

①は、太刀宮文書の御用留、丹後の御用留に記載されている、海辺の村々に伝達された幕府（公儀）の浦触の考察である。前者は、先に述べた、太刀宮文書が「神谷神社保管文書」として目録等が掲載されている『丹後漁業関係古文書目録』（一九九四年）に特論として掲載されたもので、後者は本書のために新たに補説として執筆していただいたものである。同氏は、前者以後も各地の御用留に記載されている浦触を調査され、幕藩体制の「幕―藩―村」とは別の「幕―村」の社会構造（『『触書』伝達と近世社会』〈『日本史における情報伝達』二〇一二年〉）を明らかにされている。

②は、近世は久美浜代官所の掛屋で、明治初期は区長を務めた稲葉家の、第一二代英裕（市郎右衛門）の初期の思想と地域への思いにつ

いての考察である。

③は、明治初年の郡中代のあり方と地域の体制の考察である。なお、同氏による近世後期の郡中代についての論考が『久美浜代官所関係史料集』(二〇一四年)に掲載されている。併せて参照していただきたい。

④は、大正一二年（一九二三）に刊行された『京都府熊野郡誌』の編さん主任である神谷神社宮司佐治正章氏、太刀宮文書の寄附の経過、同文書が当初収納されていた参考館（考古館）、同郡誌編さん時の深澤多市熊野郡長と深澤執筆の久美浜県史についての考察である。

⑤は、郡中代の下にあって、久美浜代官所領の広域の村々を代表する丹後国五郡惣代・丹後但馬両国惣代の考察である。

資料編は、①太刀宮文書と佐治家資料の解題・目録、②参考文献、③京丹後市による展示・セミナーと京都府立丹後緑風高等学校久美浜学舎出前講座の関係資料からなっている。

①は、今回の調査の結果である。太刀宮文書の目録については、すでに前述の目録が二回刊行されているので、基本的な事項にとどめている。それら目録も併せて参照していただきたい。佐治家資料の目録は、今回が初めての作成である。②は、『久美浜代官所関係史料集』に掲載された参考文献のその後の文献を掲載している。同史料集と併せて活用していただきたい。③は、同市教育委員会、同学舎と協同して実施した今回の調査成果還元企画関係の資料である。展示・セミナーは、ポスター・チラシ（テーマ「『海の代官所』と太刀宮文書～久美浜代官所から久美浜県へ～」〈同市立丹後古代の里資料館〉）を掲載した。出前講座は、同学舎と協同して行われた二年生みらいクリエイト科の授業報告「【みらい探究Ⅱ】久美浜フィールドワーク」（同学舎HP）を掲載した。

おわりに

今回の調査、地域還元では、神谷神社、京丹後市、京都府立丹後郷土資料館、京都府立丹後緑風高等学校久美浜学舎をはじめ、多くの方々、関係機関のご協力、ご支援をいただいた。御礼を申し上げたい。今後は撮影したデジタル画像の活用方法等を検討していきたいと考えている。